

「地震発生・津波警報発令」 その時

～ 想定外を想定内に
心構えを考える ～

2026/2/15 (日)

葉山港管理事務所 3F

NPO葉山ヨットクラブ 理事長 真野 泰人

- ▶開催年月日 2026年2月15日（日）
- ▶13：30～14：30 講演30分 質疑30分
- ▶14：30～ 津波避難所への避難訓練

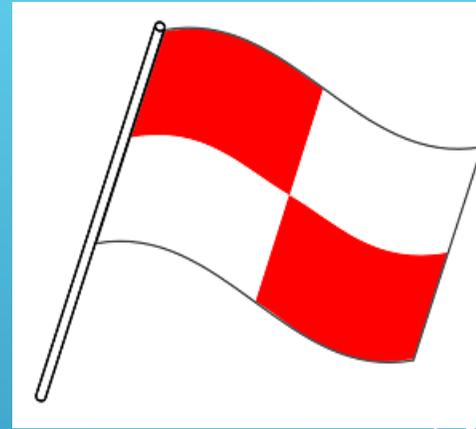
講演内容

1. 大きな被害があった近年の地震・津波
2. 津波警報・注意報の種類（気象庁）
3. 津波ハザードマップ（葉山町・逗子市）
4. 港や海上での避難行動の基本
5. 避難水深の根拠
6. 避難海域の目安
7. 海上避難の心構え～想定外を想定内に～
8. 陸上避難の心構え(避難訓練)～想定外を想定内に～

本日のスケジュール

種類	発表基準 (予想される津波の最大波の高さ)	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (予想される津波高さ区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m < 予想最大津波高)	巨大	巨大な津波が襲い、木造家屋が全壊・流失。人は津波による流れに巻き込まれる。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難。
		10m (5m < 予想最大津波高 ≤ 10m)		
		5m (3m < 予想最大津波高 ≤ 5m)		
津波警報	高いところで1m～3m以下の場合。	3m (1m < 予想最大津波高 ≤ 3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生。人は津波による流れに巻き込まれる。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難。
津波注意報	高いところで0.2m～1m以下の場で、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m ≤ 予想最大津波高 ≤ 1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波フラッグ



R2.6～気象庁
大津波警報、津波警報、津波注意報の発表を知らせる旗

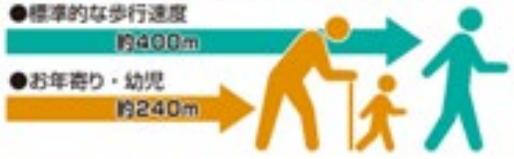
国際信号旗 (U旗)
「貴船の進路に危険あり」を意味する

2. 津波警報・注意報の種類 (気象庁)

逗子市内の避難ルート等は「逗子市津波ハザードマップ」を参考。

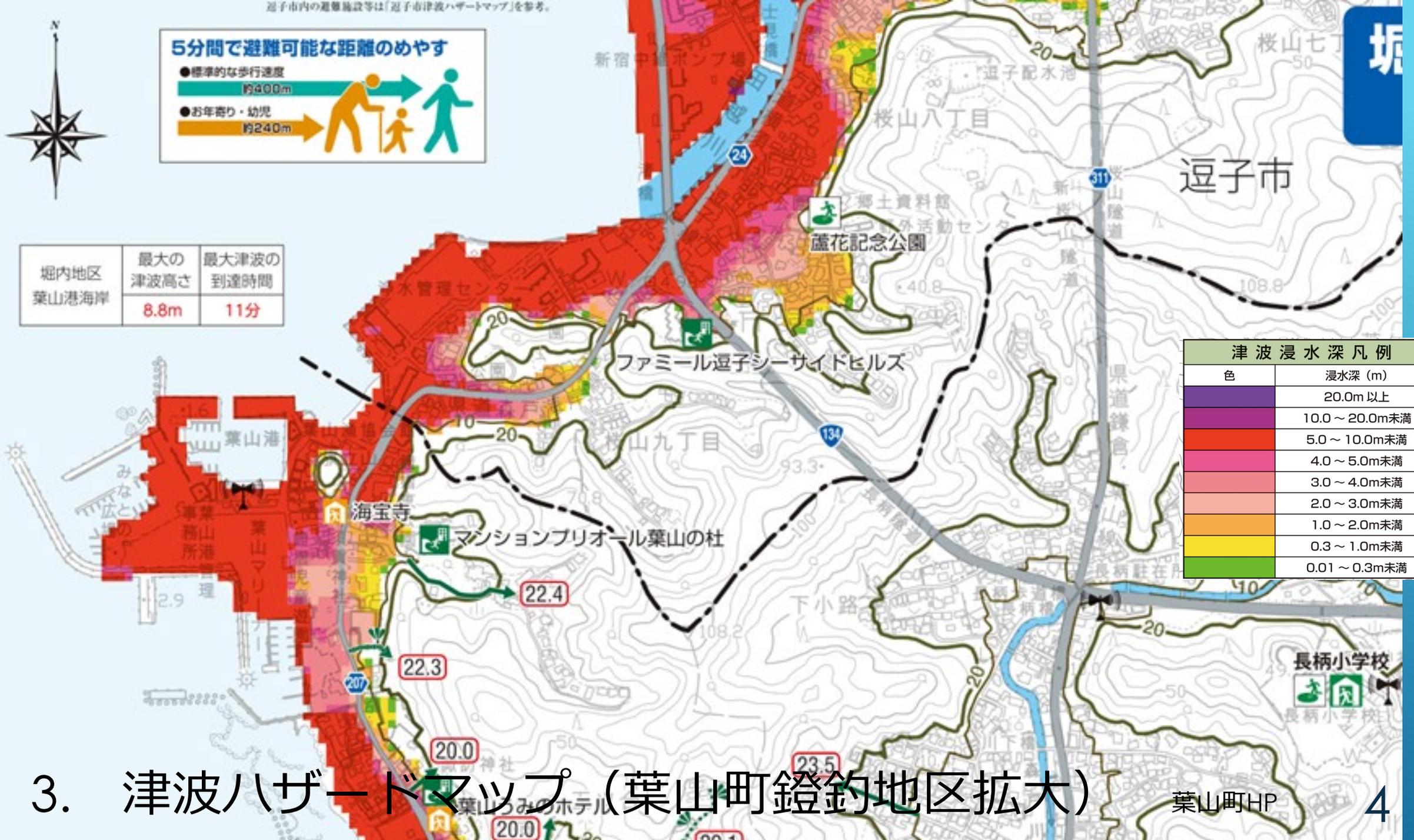


5分間で避難可能な距離のめやす



堀内地区 葉山港海岸	最大の 津波高さ	最大津波の 到達時間
	8.8m	11分

津波浸水深凡例	
色	浸水深 (m)
紫	20.0m以上
赤紫	10.0～20.0m未満
赤	5.0～10.0m未満
桃	4.0～5.0m未満
赤桃	3.0～4.0m未満
赤	2.0～3.0m未満
黄	1.0～2.0m未満
黄緑	0.3～1.0m未満
緑	0.01～0.3m未満



3. 津波ハザードマップ（葉山町鑑釣地区拡大）

葉山町HP

近代の地震-津波一覽表

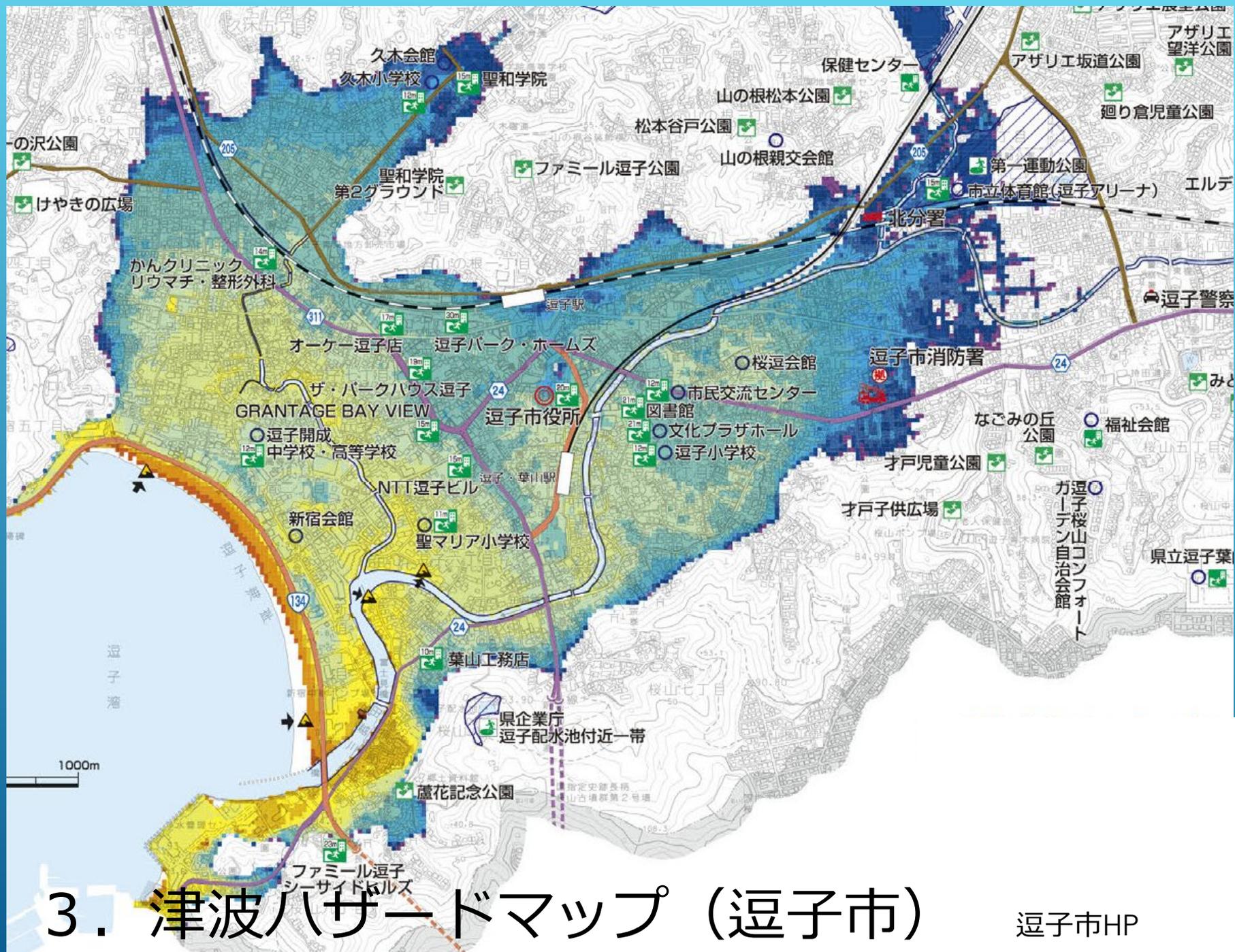
発生年月日・時刻				災害名称	マグニチュード	震源	震度		津波		備考
年	月	日	時刻				最大震度	観測位置	最大高さ	観測位置	
1923	T12	9	1 11:58	関東大震災	7.9	神奈川県西部 (深さ23km) (北緯35度19.8分、東経139度08.1分)	6 (当時の階級の最大、現在の震度階級換算で震度7相当)	相模湾沿岸・房総半島南端	神奈川県沿岸堤防の高さはこの津波高より決定されている	相模湾沿岸に津波が来襲	● 本震の3分後M7.2、その2分後M7.1 (5分間にM7級が3回の異常な連続地震)、翌2日に勝浦沖でM7.6の大余震、その夕方に九十九里沖でM7.1 ● 三浦半島南部から湘南エリアが1~2m隆起
1983	S58	5	26 11:59	日本海中部地震	Mw 7.1~7.3	能代市西方沖80km (北緯40度21.6分 東経139度04.4分)	5	秋田県青森県	14m	秋田県山本郡峰浜村 (現八峰町)	● 津波の第1波到達は、青森県の深浦7分後、秋田県の男鹿半島沿岸8分後。大津波警報を発表したのは15分後 ● 「地震があっても日本海では津波は来ない」という言伝えがあった ● 死者:104人うち100人 (釣り客18人、秋田県能代港火力発電所建設工事現場作業員35人、県内陸部の合川南小学校の4、5年生45人中13人、漁船転覆等により漁業関係者10人)
1993	H5	7	12 22:17	北海道南西沖地震	Mw 7.7	北海道奥尻郡奥尻町北方沖 北緯42度46.9分 東経139度10.8分 (深さ35km)	6	奥尻島	16.8m (津波高) 31.7m (最大遡上高)	初松前地区 (奥尻島南部) 藻内地区 (奥尻島西側)	震源域が島のすぐ近くであったため、地震発生から地震発生からの4分から5分後に奥尻島と対岸の北海道側に巨大津波が到達
1995	H7	1	17 5:46	阪神・淡路大震災	7.3	淡路島北部 北緯34度36分 東経135度02分 (深さ16km)	6	神戸市洲本市	—	—	死者6,434名、行方不明者3名、負傷者43,792名、戦後最悪の極めて深刻な被害(消防庁調べ、平成17年12月22日現在)。
2004	H16	12	26	スマトラ島沖地震	Mw9.1~9.3	スマトラ島西方約160キロ (深さ10キロ)	—	—	10m~34m	インド洋沿岸	インド洋沿岸 14 か国で 22 万人以上死亡
2007	H19	3	25 9:41	平成19年 (2007年) 能登半島地震	6.9	輪島市西南西沖40km (深さ約11km)	6強	石川県七尾市	約20cm	珠洲市金沢港	本震の後の有感地震は500回以上。3/25 18:11震度5弱 (輪島市・穴水町) M5.3、3/26 14:46震度5弱 (志賀町) M4.8、3/28 8:8震度5弱 (輪島市)
2011	H23	3	11 14:46	東日本大震災	9.0	東北地方太平洋沖 (深さ24km) 北緯38度06.2分 東経142度51.6分	7	宮城県栗原市	40.1m (最大遡上高)	岩手県宮古市 田老地区	● 14:49 (発生8分後) 大津波警報 (岩手・宮城・福島) 津波警報 (青森・茨城・千葉) 津波注意報 (北海道太平洋岸・伊豆諸島など) その後、津波は数時間以上にわたり継続的に到達。 ● 2025年3月1日の時点 死者15,900人 (全国) 行方不明者2,525人 (総務省公表値) ● 浸水距離最大約5km内陸まで到達 ● 最大地盤沈下量1.14m 宮城県牡鹿半島鮎川
2024	R6	1	1 16:10	令和6年 能登半島地震	7.6	北緯37度29.2分 東経137度15.6分 (深さ15km)	7	輪島市志賀町	80cm 4m以上 (浸水高) 5m以上 (遡上高)	金沢港・酒田港 石川県能登町、珠洲市 新潟県上越市	16:12 (発生後2分) 津波警報 輪島市西部で最大約4mの隆起 および約2mの西方向への変動、珠洲市北部で最大約2mの隆起 および約3mの西向きの変動 (いずれも暫定値)
2025		7	30 8:24	カムチャッカ半島 東方沖地震	8.8	カムチャッカ半島東方沖	—	—	141cm	岩手県久慈港	北海道から九州までの広範囲で50cm以上の津波観測 関東沿岸公共交通12時間以上運行停止
	R7	12	8 23:15	青森県東方沖地震	7.5	青森県東方沖	6強	八戸市	70cm	岩手県久慈港	23:17 (発生2分後) 津波注意報、23:23津波警報

震源が海外の地震-津波

真野が少しでも関わった地震-津波

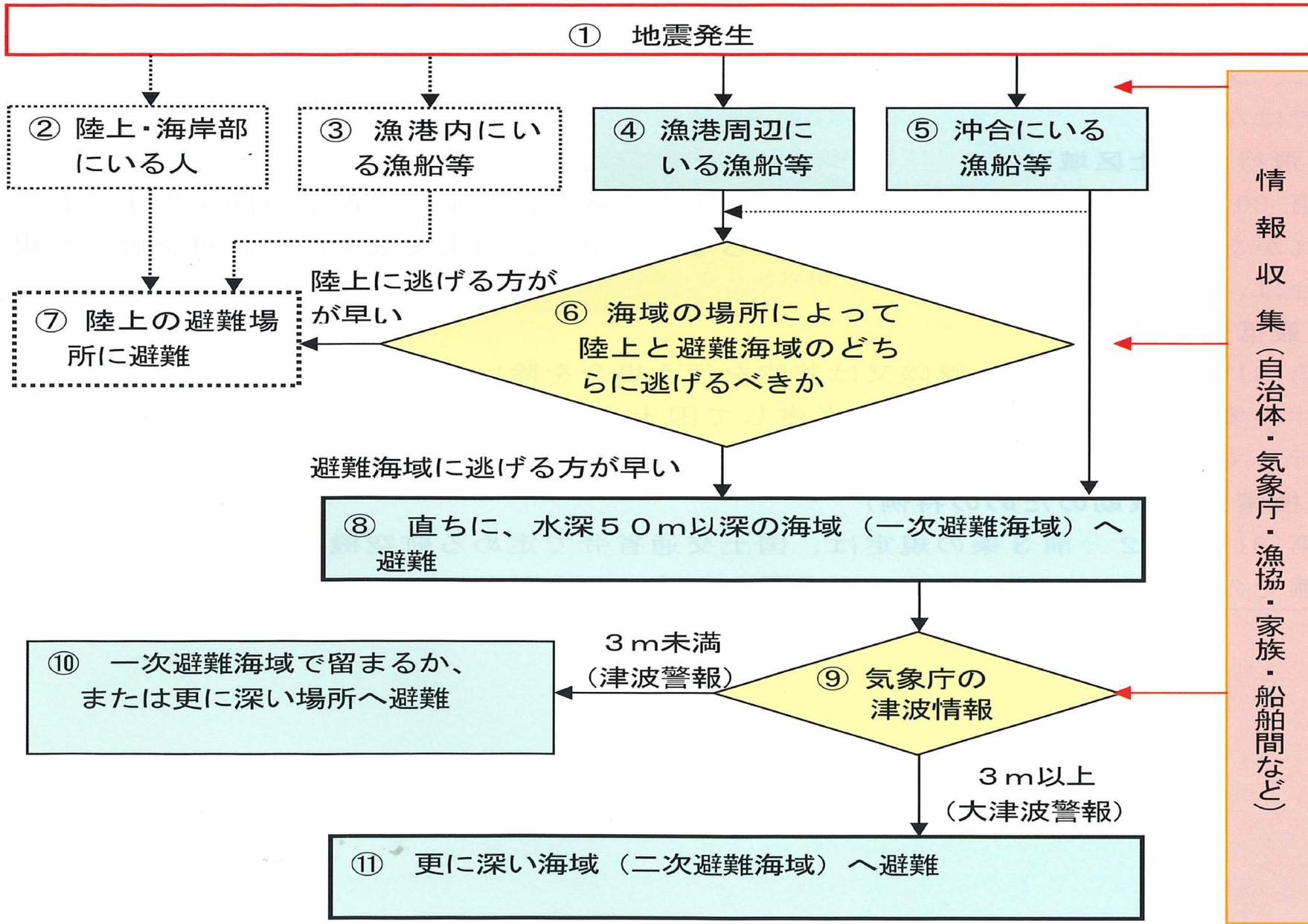
AIやネット検索情報より真野作成 (2026)

1. 大きな被害があった近年の地震・津波



3. 津波ハザードマップ (逗子市)

逗子市HP



海上の場合④⑤

海上において、避難海域に逃げる方が早い場合、直ちに概ね水深50m以深の海域（一次避難海域）へ避難。
 一次避難海域に避難するまでの間に気象庁からの津波情報入手し、「大津波警報(3m以上)」が出された場合、更に水深の深い海域（二次避難海域）へ避難。

4. 港や海上での避難行動の基本

出典 「避難行動の基本ルール」
 災害に強い漁業地域づくりガイドライン

- ▶ I 一次避難海域（まずは、概ね水深50m以深）の考え方
- ▶ 条件—① 砕波が発生しない水深であること。
- ▶ ⇒水深が津波高さの4倍以上あればOK
- ▶ 条件—② 津波流速によって漁船等の船舶が操船不能となる限界流速以下であること。
- ▶ ⇒津波流速によって、操船不能となる限界流速が、2ノット程度（約1m/s）であること。
- ▶ （津波に船首を向け船速が流速の5倍以上あればOK）



まずは、水深50メートルまで避難

- ▶ II 2次避難海域の考え方
- ▶ 一次避難海域に避難するまでの間に気象庁からの津波情報を入手し、「大津波警報(3m以上)」が出された場合、津波の予報高さに応じて流速の影響を受けない②表の更に深い海域へ避難する。

①砕波が発生しない安全水深の目安

津波の高さ (m)	砕波が発生しない水深 (m)
3	12
4	16
6	24
8	32
10	40

②流速の影響を受けない安全水深の目安

津波の高さ (m)	流速が1 m/s 以下になる水深 (m)	避難海域水深の目安 (m)
3	42	50
4	63	70
6	108	110
8	158	160
10	212	220以深

5. 避難水深の根拠

- ▶ 2次避難海域には津波警報等解除まで留まる。（数時間～12時間、通説では24時間）
- ▶ ヒーブツの技術、2次避難水域の事前情報
- ▶ 酷暑時期、厳寒期、強風時の備え
- ▶ 漂流物による危険性
- ▶ 漂流者の救助（エンジンは使えないがセイリングによる救助の可能性はある。）
- ▶ 漂流物の活用（食料、水分、空船、防寒になるもの等）
- ▶ 安全な港は無い
- ▶ 上陸できたとしても、津波被害があった場合は、道路が通行できない
- ▶ 隆起した場合、水深が浅くなる⇒入港できない。施設の天端が高くなる⇒マストから上陸
- ▶ 沈下した場合、岸壁が水没している可能性がある。
- ▶ 携帯電話は繋がらない。情報収集の重要性（ラジオ、マリンVHS）
- ▶ 家族の安否の心配。
- ▶ **乗艇メンバーの共通認識は、重要な要素**

7. 海上避難の心構え

～ 想定外を想定内に ～

葉山港から避難場所へのルート



8. 陸上避難の心構え (避難訓練)

- ▶ 津波襲来を想定する（いち早く、少しでも高い場所へ垂直避難）
- ▶ 葉山港管理事務所のビルは避難ビルの指定対象外
- ▶ 余震が発生する中での避難
- ▶ 避難経路上は既に倒壊家屋で塞がれ、通行できない可能性もある。
- ▶ サンドル・ビーサンは危険
- ▶ 避難経路上で火災が発生し、通行できない可能性もある。
- ▶ 避難経路上で瓦礫の下敷きとなり救助を求めている人がいる可能性もある
- ▶ 津波てんでんこ
- ▶ オールシーズンを想定する（酷暑時期、極寒期、雨、風、雪対策）
- ▶ サバイバルの優先順位 呼吸の確保⇒**体温保持**⇒水の確保⇒食料の確保
- ▶ 携帯電話は繋がらない。情報収集の重要性（ラジオ、マリンVHS）
- ▶ 家族の安否の心配。

8. 陸上避難の心構え ～ 想定外を想定内に ～

▶ 1995.1.17 阪神淡路大震災震災遺構（神戸港）

▶ 2026.1.20撮影



震災遺構マップ
（岩手県）

ご清聴ありがとうございました。